

工業会活動

マレーシアの航空機産業について

マレーシアの航空宇宙工業会（MAIA：Malaysia Aerospace Industry Association）より同国の航空宇宙産業に関する資料を入手したので紹介する。MAIAとは海外貿易会議やエアショー、商談会の機会に交流を深めており、またMAIAはICCAIAの3月末のボードでの議決を経て、ICCAIAへオブザーバー参加することとなった。

1. マレーシア航空宇宙産業の沿革

同国の航空宇宙産業は約50年の歴史がある。整備分野から始まり、マレーシア航空整備部門の別会社化が1972年に行われ、1997年にGE社のエンジン整備会社が単通路（Single Aisle）用エンジンを整備するために設立されている。

製造分野では、2007年にスプリット・エアロスペース社のマレーシア法人が設立され、2015年には同国資本のUMW Aerospace社がロールス・ロイス社向けエンジン部品製造の受託を開始している。その他、2014年にエア

バス社のカスタマーサポートセンターが開設されている。

2. マレーシア航空宇宙産業の現状

同国の航空宇宙産業規模は、売上高では2014年は118億リングギット（約3000億円）から順調な成長基調にあり、2019年には162億リングギット（約4130億円）となり、その内訳は、製造分野は76.2億リングギット（約1945億円）、整備分野は79.4億リングギット（約2025億円）である。

航空宇宙産業での投資は20.7億リングギット



会社名	形態	取引先OEM	主な事業内容
スプリット	海外資本	エアバス・ボーイング	エアバスA350、ボーイング787の部品製造
CTRM	現地資本	エアバス	エアバスA320の複合材使用を含む部品製造
ACM	現地資本	ボーイング	各種複合材部品製造
UMW	現地資本	ロールス・ロイス	Trent1000用部品の製造
GEマレーシア	JV	GE	エンジン整備事業
サフラン マレーシア	海外資本	サフラン	ランディング（昇降装置）システム部品製造



（約530億円）となり、企業数は約230社であり、産業人口は27,500人とのこと。

欧米企業のマレーシアへの進出や、同国資本との合弁会社設立の動きも盛んになってきており、それらの主なもととして以下がMAIA資料にあげられている。

これら主要企業を支える航空機産業の集積もマレーシア各地で進んでいる。主な集積地として首都のクアラルンプール近郊にKLIA AeropolisとSUBANG Aerotech Parkが建設されている。その他に、シンガポールに隣接するSENAI Airport Aviation Parkやマレーシア資本企業（UMW）の生産拠点であるUMW High-Value Manufacturing Park Serendahがあげられている。

3. マレーシア政府の政策・支援策

同国航空宇宙産業の基本政策を示す“Malaysia Aerospace Blueprint 2030”が策定されている。

そのなかで、航空宇宙産業の振興を行う意義として、The Government of Malaysia has identified the aerospace industry as a strategic industry which has a wide potential in the country’s industrialization and technological development programme.（マレーシア政府は、航空宇宙産業は国の産業化と技術進展に大きく寄与する可能性がある戦略的な産業である・筆者訳）とコメントされている。

同施策では、マレーシアは2030年までに東南アジアでNo.1の航空宇宙国家となり、世界市場で欠くことのできない部分になる、

とうたわれている。

数値目標は、2030年の目標として売上規模で552億リングギット（約1兆4000億円）、産業人口は32,000人としている。現在は整備部門と製造部門で半々（50/50）の産業構造を、その他分野（イノベーション分野等）で20%の売上げを獲得することを目標として

いる。

同施策では5つの戦略分野をあげ、2030年までの取組みと目標を示している。

これら航空宇宙産業発展を支援する同国政府機関とその役割がMAIA資料に示されているので紹介する。

戦略分野	取組み・目標
整備（MRO）	少なくとも世界市場の5%シェアを獲得
製造	大型部分組立品、Tier1,RSPによって東南アジアでNo.1の航空宇宙部品とコンポーネントの供給元になる
システム	戦略的資産の統合と機能改善を図り自立する（少なくとも70%の現地調達率）
エンジニアリング	少なくとも世界市場の3.5%シェアを獲得
教育訓練	東南アジアでNo.1の有能な労働力の供給

まずは、産業振興を担当する省庁としてMITI（Ministry of International Trade and Industry）がある。MITIの機構の一部門で航空宇宙産業振興を担当するNAICO（National Aerospace Industry Coordinating Office）があり、“Malaysia Aerospace Blueprint 2030”を所管する。彼らのHP（<https://www.miti.gov.my/index.php/pages/view/naico>）には“Malaysia Aerospace Blueprint 2030”をはじめとした多数の資料が掲載されているので参照されたい。

同国との貿易振興を担当する機関として、マレーシア貿易開発公社、MATRADE（Malaysia External Trade Development Corporation）があり、日本にも駐在事務所が開設されている。

同国への投資振興を担当する機関としてマレーシア投資開発庁、MIDA（Malaysian Investment Development Authority）があり、こちらも日本に駐在事務所を開設している。

その他の機関としてMITI傘下で中小企業振興を担当するSME CORP（Small And Medium Enterprises Corporation Malaysia）や地方政府の投資開発部門（例えばSELANGOR地区のINVEST SELANGOR等）がある。

マレーシア貿易開発公社（MATRADE）やマレーシア投資開発庁（MIDA）の日本駐在事務所は常設の相談窓口開設のほか、各種セミナーやB to Bを開催しているので利用されたい。

4. マレーシア航空宇宙工業会（MAIA）の紹介

MAIA（Malaysia Aerospace Industry Association）は2016年3月に同国政府省庁のMITIにより設立された民間の航空宇宙工業会である。会長はNAGUIB MOHD NOR氏で航空宇宙産業でのエンジニアリングを手掛けるSTRAND Aerospace社の代表も務められて



いる。副会長はスピリットマレーシア社の DATUK ZULKARNAIN MOHAMED氏が就任している。会員数はSMEsを含めて89社（分野別の構成比率は製造分野53%、整備分野9%など）とのこと。MAIAのHP（www.maia.my）には会員企業情報などもあるので参照されたい。

5. まとめ

東南アジアの航空宇宙産業では、シンガポールが整備分野を基盤とした産業構造であ

るのに対し、マレーシアは製造分野を基盤とした産業構造の構築を強化し、既存の整備分野も活用することを狙っているようである。また、歴史上の経緯から英語が使える人材も豊富にいる。日本からマレーシアへの投資も長年行われてきており、近年は日本の航空宇宙産業のSMEsの進出も始まっている。今後もMAIAとの情報交換を進め、マレーシアの航空宇宙産業の動向に注目を続けていきたい。

〔(一社) 日本航空宇宙工業会 国際部部長 羽中田 実〕